

(1) 学力の向上 (小中一貫教育推進事業)

目標	<p>子どもたちの確かな学力の向上に向けた取り組みを推進します。</p> <p>学力状況を把握・分析し指導方法等を明確化し、公表します。</p> <p>子どもたちの体力・運動能力の向上に向けた取り組みを推進します。</p>
取り組み	<p>【学力の向上】</p> <p>全中学校区に「小中一貫・学力向上推進コーディネーター」を核とした組織体制を確立し、「授業改善」及び「家庭学習の定着」に向けた取り組みの充実を図ります。</p> <p>「Hirakata 授業スタンダード」に基づいた授業改善や教員の授業力向上に向けた研修の充実を図ります。</p> <p>全国学力・学習状況調査結果を 1 つの指標として分析・活用した学力向上プランを作成し、児童・生徒の学力向上に取り組むとともに、全小中学校において学年会や教科会、学力向上委員会を定期的に開催することで授業研究や教材・教具等の充実を図り、教職員の指導力向上と授業改善に取り組みます。</p> <p>家庭学習の定着に向けた取り組みとして、「自主学習ノートのすすめ」を作成し、モデル校において試行的に活用します。</p> <p>【学力状況を把握・分析し指導方法等を明確化・公表】</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果をもとに全国平均との比較・分析を行うなど、学力状況をよりわかりやすく公表するとともに、分析結果等をもとに、より効果的な施策につなげていきます。</p> <p>【体力の向上】</p> <p>児童・生徒体力・運動能力調査について、抽出対象校以外、また対象学年以外でも積極的に実施します。</p> <p>夏休みの「開放プール」について、枚方市水泳進級表等を活用しながら、児童一人一人が目標を持って取り組める「水泳教室」として実施します。</p> <p>平成 29 年度当初予算：81,668 千円</p>

9 月末の
進捗状況
【〇】

【学力の向上】

- ・「小中一貫・学力向上推進担当者研修会」を実施し、「Hirakata 授業スタンダード」に基づいた授業改善及び家庭学習の定着に向けた研修を実施した。
- ・各小中学校において、学力向上プランを作成し、学力向上に向けた取り組みを計画的に推進するとともに、児童・生徒にアンケートを実施し、取り組みの進捗状況の把握を行っている。また、学力向上委員会を中心とした、小学校における学年会、中学校における教科会を定期的に開催することで、組織的な取り組みを推進し、教職員の指導力向上と授業改善を図っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の定着に向けた取り組みとして、モデル校において「自主学習ノート」の効果的な活用方法について実践研究を進めている。 【学力状況を把握・分析し指導方法等を明確化・公表】 ・全国学力・学習状況調査の結果をもとに、全国平均との比較や分析等を行った学力の状況について、10月上旬にホームページで公表を予定している。 【体力の向上】 ・体力向上研究モデル校において、児童・生徒体力・運動能力調査を対象学年以外に拡大して実施した。今後、調査結果をもとに分析を進める。 ・夏休み期間中に、枚方市水泳進級表等を活用した「水泳教室」を小学校44校（1校は工事により実施不可）において実施した。
--	--

(2) 指導体制の充実（小中一貫教育推進事業）	
目標	義務教育9年間を見通して、児童・生徒の発達段階に応じた指導体制の充実を図ります。
取り組み	<p>小学1年生から4年生まで、支援学級児童数を含む1学級35人以下とする本市独自の少人数学級編制を実施します。</p> <p>小学5・6年生は、各中学校区の状況に応じて外国語活動や体育、理科を選択する一部教科担任制の実施や習熟度別指導、ティーム・ティーチング等の少人数指導を行うことにより、子どもの理解度に応じた学習指導を行います。</p> <p>中学校は、習熟度別指導、ティーム・ティーチング等の少人数指導を行うことにより、子どもの理解度に応じた学習指導を行います。</p> <p>平成29年度当初予算：263,861千円</p>

9月末の進捗状況【〇】	<ul style="list-style-type: none"> ・小学1年生から4年生まで、支援学級児童数を含む1学級35人以下とする本市独自の少人数学級編制を実施している。 ・小学5・6年生は、外国語活動又は、体育、理科について一部教科担任制を実施している。また、全小中学校において、子どもの理解度に応じた学習指導を行うため、習熟度別指導、少人数指導を実施している。
-------------	---

(3) 自学自習力の向上（放課後自習教室事業）

目標	日々の学びの連続性の確立と家庭学習の充実に取り組みます。 より多くの児童・生徒の学習機会の充実を図ります。
取り組み	全小中学校に配備しているパソコンの自学自習力支援システムを、朝学習、授業、放課後学習、家庭学習において活用し、児童・生徒の自ら学ぼうとする力の育成と基礎・基本の定着に取り組みます。 各小中学校の放課後自習教室の開室日数を 70 日以上から 80 日以上に拡充します。 平成 29 年度当初予算：59,144 千円

9 月末の 進捗状況

【○】

全小中学校において、朝学習、授業、放課後学習、家庭学習において自学自習力支援システムを活用し、児童・生徒の自ら学ぼうとする力の育成と基礎・基本の定着に取り組んでいる。
放課後自習教室については、学校の実情に応じて、週 2 日～4 日程度、開室している。

(4) 英語教育の推進

目標	子どもたちの英語によるコミュニケーション能力の育成を図るため、小中学校間で連携しながら英語教育を推進します。
取り組み	全中学校に各校 1 名の外国人英語教育指導助手（NET）を、全小学校に英語が堪能な日本人英語教育指導助手（JTE）を配置し、学校の取り組みを支援します。 「読む」「書く」「聞く」「話す」力をバランスよく育む授業の実践と、児童・生徒の英語学習への意欲を高める取り組みを進めます。 平成 29 年度当初予算：132,235 千円

9 月末の 進捗状況

【○】

英語によるコミュニケーション能力の育成を図るため、全中学校に各校 1 名の外国人英語教育指導助手（NET）を、全小学校に日本人英語教育指導助手（JTE）を配置し、「読む」「書く」「聞く」「話す」力をバランスよく育む授業を実施している。

(5) 生徒指導の充実	
目標	学校・家庭・地域・関係機関が連携し、個に応じたきめ細かな指導の充実に努め、いじめ問題・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応を行います。
取り組み	<p>社会福祉士等の専門的な知識・技術を有するスクールソーシャルワーカーを配置し、状況に応じて、関係機関との連携を図りながら、子どもの学校生活の充実や家庭の教育力向上を支援します。</p> <p>総合電話窓口「子どもの笑顔を守るコール」を設置し、児童・生徒・保護者等からの電話相談に対応するとともに、必要に応じて教育相談員が継続的な電話または面談による教育相談を実施します。</p> <p>複数の中学校に市独自で教員等を配置し、生徒指導体制の強化を図り、いじめ等の未然防止・早期発見に繋げていきます。</p> <p>「枚方市いじめ問題対策連絡協議会」等において、いじめ防止等に関する関係機関との連携の強化を図り、いじめ問題への対策に向けた協議を行います。</p> <p>人権課題に関する正しい知識の習得及び課題解決に取り組むとともに、いじめ等による人権侵害事象の未然防止のため、高い人権意識と自他を尊重し、認め合う実践力を持った主体性のある人間の育成をめざした人権教育の推進に努めます。</p>
	平成 29 年度当初予算：118,041 千円

9 月末の 進捗状況 【○】	<p>スクールソーシャルワーカー等の活用により課題のある児童・生徒及び保護者の支援に取り組んでいる。また、いじめ問題については、「枚方市いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、協議を行うとともに、「枚方市学校いじめ対策審議会」も開催し、調査審議を行っている。さらに、各学校における人権教育の取り組みを把握し、人権侵害事象の未然防止に努めている。</p>
----------------------	--

(6) 支援教育の充実	
目標	<p>インクルーシブ教育システム(※)の理念を踏まえ、すべての子どもが「ともに学び、ともに育つ」という観点からの学校づくり・集団づくりの充実を図り、障害のある子ども一人ひとりのニーズに応じた支援を行います。</p> <p>※インクルーシブ教育システム…障害のある者と障害のない者が、同じ場で、可能な限りともに学ぶ仕組みのこと。</p>
取り組み	<p>支援教育に関する専門家等を学校園へ派遣し、教職員への指導・助言等を行います。</p> <p>学校看護師・介助員の配置や支援教育に係る環境の整備等を行います。</p> <p>非常勤講師を配置し、支援教育推進の中心となる支援教育コーディネーターの活動を支援します。</p> <p>情操教育の観点から馬とふれあい、豊かな心の育成をめざし、子どもの自立のための</p>

支援を行います。 小学校 2 校の支援学級にタブレット端末を導入し、ICT の効果的な活用について研究 します。 支援学級を新設する際に、設備整備のため備品等を購入し、また、障害の状況に応じ てレバーで操作できるリコーダー、拡大教科書及び階段昇降車等を貸与する等、教育 環境整備を行います。
平成 29 年度当初予算：184,531 千円

9 月末の 進捗状況 【○】	すべての子どもが「ともに学び、ともに育つ」という観点から、支援教育に 関する専門家の派遣、学校看護師・介助員の配置、支援教育コーディネータ ーを支援するための非常勤講師の配置、備品の購入や貸与を行い、支援教育 に係る環境整備を進めている。
----------------------	--

(7) 教職員研修の充実	
目標	「経験の浅い教職員及びミドルリーダーの育成」「学力向上に向けた授業づくり・授業 改善の推進」「授業研究・研修への支援の充実」を図ります。
取り組み	授業研究・研修への支援を充実し、教員の授業力向上と児童・生徒の学力向上を図り ます。 学習指導要領改訂を見据え、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「Hirakata 授業スタンダード」に基づいた授業改善や教員の授業力向上に向けた研修の充実を図 ります。具体的には、本市独自の教職員研修計画に基づき、教職員の経験年数や職務 に応じて行う「基本研修」及び教育課題や教科等の専門性を高める「専門研修」を実 施します。 高い意欲と優れた指導力を有する教職員を育成する「授業の達人養成講座」をさら に充実させ、教職員の授業力、指導力の向上を図ります。 指導主事、教育推進プランナーが学校園を訪問し、経験の浅い教職員への指導助言や 授業研究・研修への継続的な指導・支援を行います。
	平成 29 年度当初予算：8,702 千円

9 月末の 進捗状況 【○】	教職員の経験・職務に応じた「基本研修」を 103 回、教育課題や教科等の専 門性を高める「専門研修」を 54 回、合計 157 回の教職員研修を実施。専門研 修のうち「授業の達人養成講座」については、5 回実施。指導主事及び教育推 進プランナーによる学校園訪問を 561 回実施。(内訳、経験の浅い教職員への 指導助言 271 回、授業改善、授業研究等への指導・支援等 290 回)
----------------------	---